



あなたも知ってる
世界の音楽

1984年11月17日(土)
ノバホール

出演 **アス・ノーヴァ**

主催：つくば音楽芸術家協会

後援：茨城県教育委員会

ごあいさつ

きょうはアルス・ノーヴァコンサートにおいていただきましてありがとうございます。1976年5月以来、皆様に親しまれてきました「あなたも知ってる世界の音楽」も今回で8回目を迎えました。

こよいは 指揮者に村方千之氏、管弦楽は東京メモリアルオーケストラをむかえてピアノ協奏曲、マリンバ独奏そしてオペラなどの名曲のかずかずを心ゆくまでお楽しみ下さい。

代表 佐藤 宏之

第8回あなたも知ってる世界の音楽

指 揮 / 村方 千之

ソプラノ独唱 / 佐藤 玲子

／安東有貴恵

／横瀬 公子

／鈴木由美子

／山本 幸江

／佐藤あけみ

バリトン / 佐藤 宏之

バス / 堀部 一寿

ピアノ独奏 / 古関(旧姓・山田)寛子

マリンバ独奏 / 倉島 康彰

ナレーター / 蒔村由美子

管 弦 楽 / 東京メモリアルオーケストラ

1984年11月17日(土) ノバホール

後援：茨城県教育委員会

〔注意〕

- 花束はプログラム全部が終了してからにして下さいます様お願いします。
- 演奏中の出入りや通路を歩くことは絶対になさらない様をお願い致します(特にお子様おつれの方は御注意下さいます様)
- 託児所をご利用下さい。

●プログラム

1 ●ショパン作曲 ピアノ／古関(旧姓山田)寛子 ピアノ協奏曲第1番

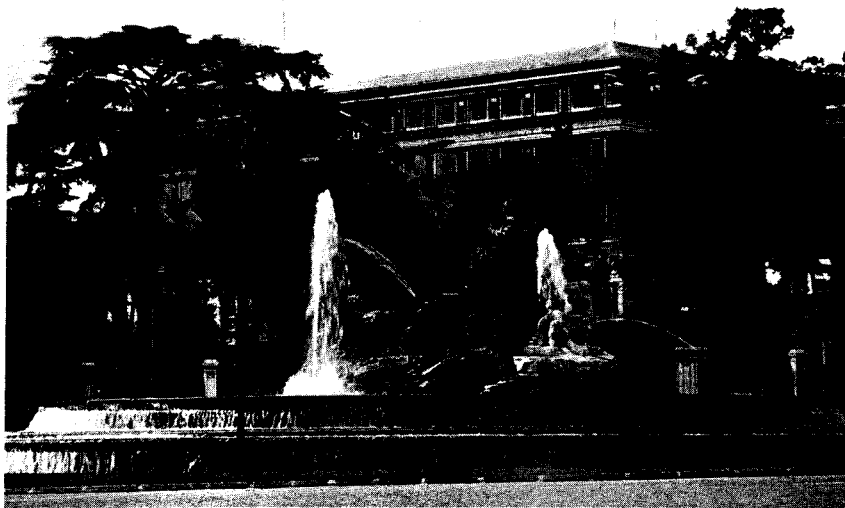
1830年10月11日に、故国ポーランドを去る告別演奏会の為に、20才のショパンが、自作自演した曲。自由で華やかなピアノ技巧のオ1楽章、ショパン自身が、「ロマンティックな静かな、やや憂うつな気分で作曲した春の美しい月の夜のような…」と、言っているオ2楽章、モーツァルトのような優雅で、生き生きとしたロンドで、ピアノ技巧を、駆使したオ3楽章からなる、ショパン特有の繊細な感覚と、美しい詩的情緒が融合した曲。

2 ●モーツァルト作曲 バス／堀部一寿 オペラ“フィガロの結婚”より「もう飛ぶまいぞこのちようちよ」

もう飛ぶまいぞこの蝶々 夜も昼も休まず
花の心さわがす 罪作りな蝶々
もう軍人だぞ 口髭はやして
鉄砲がついでサーベル片手に 姿勢を正しく
すこし大人ぶって大人ぶって 踊りの代りに
泥の中を進軍 野山を踏みわけて 雪の日も
雨の日も ラッパや大砲の音が耳をば
つんざく戦さに出るからは
羽根はならぬぞよ 帽子もならぬぞ
髪も短く 粋な身なりはならぬ
もう飛ぶまいぞこの蝶々 夜も昼も休まず
花のこゝろ騒がす 罪作りな蝶々罪作りな蝶々
ケルビーノ さらばよ 勇ましく行け
勇ましく行け

3 ●プッチーニ作曲 ソプラノ／佐藤玲子 オペラ“ボエーム”より「ムゼッタのワルツ」

私が街をひとり歩くとときに、人は立止まって私を見るわ
そして、頭のとっぺんから足の先まで 私の美しさに
すっかりみとれちゃうの
そんな時、私は人々の熱い憧れの目を味わうの
それは、ぬれた眼で明らかに — はっきりと魅力で
隠された美しさもちゃんとわかってしまう
こうしたみんなの熱望の中に囲まれて、私は幸せなのよ
私を御存知のあなた
私に恋い焦がれている
あなたが、そんなに逃げられると思って？
私は よく知っているわ
あなたは言いたがらないけれど
あなたが 死ぬほど苦しんでいることを！



4 ● 団伊玖磨作曲 オペラ“夕鶴”より「かごめのアリア」

ソプラノ／佐藤あけみ

与ひよう あたしのだいじな 与ひよう
あんたは どうしたの
あんたは だんだん かわってゆく
あたしとは違う世界のひとに なってってしまう
いつか あたしを 矢で射たような
あの恐い人達と おなじに なってってしまう
どうしたの？ あんたは
どうすればいいの？ あたしは
あたしは あたしは どうすればいいの？
あんたは あたしの命を助けてくれた
何の報いも望まないで 矢をぬいてくれた
それが ほんとに うれしかったから
あたしは あんたの所へ来たのよ。
そして、あの布を織ってあげたら あんたは
子供の様に喜んでくれた
だから あたしは苦しいのに 何枚も
何枚も 織ってあげたのよ
それをあんたは そのたびに お金と取り替
えて来たのね
それでもいいのあたしは あんたが
お金が好きなのなら だから お金はいった
から あとはあんたと2人きりで
この小さな家の中で静かに 楽しく暮らしたいのよ
あんたは 他の人とは違うひと
あたしの世界の人
だのに あんたはだんだん離れてゆく
だんだん 遠くなってゆく
どうしたの？ あんたは
どうすればいいの あたしは
あたしは あたしは どうすればいいの？

5 ● グノー作曲 オペラ“ファウスト”より「宝石の歌」

ソプラノ／鈴木由美子

ああ！わたしは楽しげに自分をながめているのだわ
鏡にうつるわたしのなんと美しいこと
これはあなたなのマルグレーテ、これはあなたなの？
わたしに答えてちょうだい
はやくね！
いいえ…いいえ これはもうあなたの顔じゃないわ
これは お姫さまだわ
これわ あなたじゃないわ
これは お姫さまだわ
通りすがりのみんなからあいさつをうける お姫さまだわ
ああ、あの方がここにいらっしやったら！
このようなわたしをごらんになったら！
ああ お姫さまのように、あの方はわたしをきれいだと思ひになるでしょうに！
すっかり変わってしましましょうね
一刻も早くつけてみたいわ 腕輪と首飾りを
ああ！まるで手のようにやわらかだわ、腕の上におかれたものは！
ああ、ああ、わたしは楽しげに自分をながめているのだわ
鏡にうつるわたしのなんと美しいこと！
これはあなたなの マルグレーテ これはあなたなの
わたしに答えてちょうだい
答えて 答えて はやくね
ああ あの方がここにいらっしやったら！
このようなわたしをごらんになったら
お姫さまのように あの方は わたしをきれいだと思ひになるでしょうに
マルグレーテ、これはもうあなたじゃないわ
これはもうあなたの顔じゃないわ！
そうだわ！これはお姫さまだわ
通りすがりのみんなからあいさつをうけるお姫さまだわ

6 ●ビゼー作曲 オペラ「カルメン」より「もう恐れはしない」

ソプラノ／山本幸江

レシタティーボ

やっとたどりついたこの隠れ家。あの方にお会いして
お母様のおことづけを 恐れず伝えましょう。

アリア

なにが出たってこわくないわ、大丈夫平気だってば
でもから元気を出してもだめ、本当はこわくて死にそう…
こんな淋しい場所へ ひとりきり
たったひとりて こわいわ、でも こわがっちゃいけないの
どうぞ勇気をおさずけ下さい、どうぞお守り下さい
神様。

今度こそ、じっくり見てやるわあの女、のろわれた手管でもって
わたしの愛したあの人を、恥知らずの男にってしまった、あの女。
危険な女、美しい女、でもこわがったりするもんか

そうよ、こわがったりするもんか

面とむかつてはつきりといってやる ああ！

神様どうぞお守りください。神様どうぞお守り下さいああ！

なにが出たってこわくないわ、大丈夫 平気だってば

でもから元気を出してもだめ、ほんとうはこわくて死にそう。

こんな淋しい場所へひとりきり、たったひとりてこわいわ。

でもこわがっちゃいけないの。どうぞ勇気をおさずけ下さい。

どうぞお守り下さい神様。

お守り下さい。おお神様！勇気をおさずけ下さい！

お守り下さい、おお神様！お守り下さい おお神様！

7 ●ビゼー作曲 オペラ「カルメン」より「闘牛士の歌」

バリトン／佐藤宏之

されば 今宵の酒に我が歌語を注ごう
闘牛士でも軍人でも 生命を的に闘うのだ
はるか見渡す限り い並ぶ人の群は
剣かざし 立つ姿に声もどろとたけり狂うのだ
我が名を呼ぶ その声に胸も勇み躍る
眼凝らせて 待つは紅い血潮ぞ
さあ今だ さあ

トリアドールさあ用意だ トリアドール
紅い血潮のなかにも いとしい人の
黒い瞳が見ているのだ

何か息ずまる 恐ろしさよ
時ははまだ 柵を蹴立てて 牛が出たぞ
あわれひとつきに 馬もろともたおれる
ピカドール
ああブラボオ トーロあがる声に
来るぞまたそれ つきかかるぞ
打ち振るバンデリーラ 身のさばきも頼母しげに
勢子が皆逃げればあとはお前だ
さあ今だ さあ ああ

8 ●ベートーベン作曲 マリンバ独奏「ロマンス」

マリンバ独奏／倉島康彰

ベートーヴェンは、ヴァイオリンのために2つのロマンスを作曲している。今回、演奏するへ長調と、もう1つはト長調である。2曲とも1802～3年に作曲されたものと考えられるが、この時期は、ベートーヴェンの中期の最絶頂にかからんとする創作期に当り、小品ながら充実した作品である。なお、1802年に第6、7、8番のヴァイオリン・ソナタ、1803年に第9番「クローツェル」が作曲されている。
「ロマンス」とは、文学上のロマンスから来た言葉で、抒情的そしてはなやかな空想をたたえた楽品のことで、一般に作曲者の自由な感情を表現した曲を意味している。初めは詩を主とした歌曲であったが、モーツァルト以後器楽曲としても作られるようになった

9 ●プッチーニ作曲 オペラ“ボエーム”より「私の名はミミ」

ソプラノ／安東有貴恵

〈訳詞〉

え、わたしをミミと みんなが呼びます
しばらくわたしの話を聞いて下さい
百合やばらの花を 楽しく縫って暮しています
花はやさしく春の夢を話します
美しい詩人のような あこがれもささやきます
いかが

わたしをミミと呼ぶのは何故
食事も一人ですませ 教会にも行かず家で祈り
いつも淋しく 屋根裏の小さな室で暮しています
やがて雪がとけはじめると
暖い春の日射しが窓を訪れます
花瓶のばらも芽ぐみ 一葉一葉に
やさしい香りがします
でも縫い取りの花は少しも香りません
わたしの話はこれだけ
つまらないことばかりお聞かせしました

10 ●ドニゼッティ作曲 オペラ“ルチア”より「あたりは沈黙に閉ざされ」

ソプラノ／佐藤 玲子

暗い夜更け あたりは静まりかえり
陰気な月の蒼白い光が 水の面を照らしていました。
低い悲しげな呻きが 風のままに聞こえてきた時
ここに…この泉の緑のところに 亡霊が私に姿を見せたのです。ああ！
何かを話す人のように 唇の動くのが見え
そして、生気のない手で私を招いている様に見えました。
一瞬、じっと立っていたかと思うと 突然姿は消えてしま…ました。
そして あんなに澄んでいた水が 血潮で赤くなりました。

あの方は 私の日々の光です。
あの方は 私の悩みの慰めです。
このうえもなく燃える情熱に心を奪われた時
あの方は 私に 心からの言葉として永遠の誠をお誓いになりました。
私は 悲しみを忘れ 涙は喜びに変わりました。

あの方のおそばに居ると
私に天国が
開けるような気がするのです。

11 ●プッチーニ作曲 オペラ“ボエーム”より「告別の歌」

ソプラノ／安東有貴恵

告 別 の 歌

第3幕、ミミとロドルフォは一緒に生活したが、ミミは胸を患っていた。ロドルフォはマルチェロに自分の悩みを打ちあける。自分はミミを愛しているが、病身で死を待つばかりの彼女に貧乏な自分にはどうすることもできない、あの娘の病気の原因は自分にあるのだ、と。これを木陰で聞いたミミは、ロドルフォとの別れを決意し、限りない哀愁をこめてこの「告別の歌」を歌う。

歌詞大意

あなたの愛の呼び声を聞いて
仕合わせを感じて出てきたのですが、
ミミはまたもとのねぐらに戻ります。
もう一度、みせかけの花を作るために。
さようなら、恨みっこなしに。
でも聞いて下さい！
あちこちに残してきた少々の物を集めていただき
たいのです。
私の引出しの中に金の腕輪がありますの、それにお祈りの本も
全部一緒にエプロンに包んで下さい。
そうしたら門番にとりにこさせますから。
そう、枕の下にバラ色の帽子があります、もし、
よろしかったら
恋の思い出にとっておいて下さい。
さようなら、さようなら！

12 ●ヴェルディ作曲 オペラ“椿姫”より「プロヴァンスの陸と海」

バス／堀部一寿

プロベンツァの海へ 共に帰らん
幼なき幸の 想い出の国

暗き歎きの なかより出て
明るき家の 春を迎えん
我が子よ

帰らぬ汝れに 心いためつ
やさしき妹が 日毎待ちわぶ

涙ぬぐいて 今ぞ迎えん
美わし国の 汝が故郷へ
かえれや

13 ●ドリーブ作曲 オペラ“ラクメ”より「若いインドの娘はどこに」

ソプラノ／横瀬公子

若いインドの娘はどこへ
バリアの娘は
ミモザの繁みに
月の光の戯れる時？
月の光の……etc. ……
娘は苔の上を走り
バリアの娘ゆえに
人に嫌われることも
忘れていた。
娘は苔の上を走る
バリアの娘は。
ばら色の月桂樹の下を
楽しいことを夢見て
ああ、娘は音もなく行く
夜にはほえみかけながら！ ああ！
その暗い森の奥で
道に迷ったその旅人はだれ？
その暗がりて
その男の眠りはあたりに輝いていた
男は歩きつづける。あてもなく、心空ろに！
獣たちは舌なめずりして吠え、
今や獲物に飛びかからんばかり。
若い娘は走り寄り、
怒れる獣たちに立ち向かう。
娘は魔法使いの鈴のついた
一本の杖を持っていた。
ああ！ ああ！ ああ！ ああ！ ああ！
ああ！
見知らぬ男は娘を見つめた。
娘はまぶしかった。
男はラージャ 貴族 より美しかった。
男はバリアの娘を眠らせ、夢のうちに
娘を天まで連れて行った。
君の家は天にあると言いながら。
男はブランマの子ヴィシュヌーだった！
この目から、森の奥では、
道行く人は時折りに魔法使いの鈴の鳴る
杖のささやかな音を聞くという。
ああ！ ああ！ ああ！ ああ！ ああ！
ああ！

14 ●プッチーニ作曲 オペラ“トゥーランドット”より「氷のような姫君の心も」

ソプラノ／鈴木由美子

「氷のような姫君の心も」
氷のように冷たいそのお心も
燃えさかる心の炎の前には
あなたもあの方を好きになれましょう

この暁の光がさしそめる前に
私は疲れ果てて瞳を閉じます
王子様は再び勝利を得られるでしょうし
私ももう王子様にお目にかかることもありません

15 ● プッチーニ作曲 ソプラノ／佐藤あけみ・ソプラノ／山本幸江 オペラ“蝶々夫人”より「花の二重唱」

蝶々夫人 「庭の花を残らずつんできましょう。あの方を花でうずめてあげましょう」
スズキ 「おくさま、どうしてお泣きに」
蝶々夫人 「いえ、泣いちゃいないわ。いつごろ着くかしら。一時間ほどね。」
スズキ 「そうね」
蝶々夫人 「それじゃ二時間。」花をつみましょう。空の星の数だけ
たくさん 花を。」
スズキ 「花を」
蝶々夫人 「つみましょう。さくらやもやすみれや何でもたくさん
つみましょう。」
スズキ 「お庭の花がなくなります。」「これどうぞ」
蝶々夫人 「たりないわ。」
スズキ 「その窓のそばで港をながめ泣いてらしたことも
ありましたね。」
蝶々夫人 「もう泣くことは きのうの夢よ。あの涙が今は花と
なって咲いた。」
スズキ 「おや もうこれぎり。」
【蝶々夫人 「バラはいくらに」 「花の香にむせるようだわ。」 「春のいぶき。」
蝶々夫人 「花のかおりにむせるようだわ。」 「春のきぶきがあふれるのよ。」
蝶々夫人 「花の香が…」
【スズキ 「花の香が…」
蝶々夫人 「あふれる。」
スズキ 「ゆり？」 「すみれ？」
蝶々夫人 「どの花でもいいわ。」
スズキ 「春のいぶきが」
蝶々夫人 「みちあふれるのよ。あの方の場所には」
スズキ 「ゆりやバラや」
【蝶々夫人 「色の華やかなの。」 「そこにもここにもきれいな花を…」
【スズキ 「色の華やかなの。」 「そこにもきれいな花を…ここにも」
蝶々夫人 「ありとあらゆるきれいな花をかざりましょう。」
【スズキ 「ありとあらゆるきれいな花をかざりましょう。」
蝶々夫人 「お部屋を花でかざりましょう。」
【スズキ 「お部屋を花でかざりましょう。」

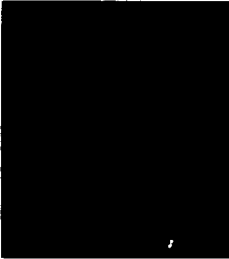


●プロフィール



●指揮／村方千之

1955年東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。指揮を金子登、渡辺暁雄に師事。後に斎藤藤秀雄に師事。各地で小、中学校向け音楽啓蒙活動を行なう。1970年より4年間東京音楽大学講師として在任。1975年ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ市におけるヴィラ＝ロボス国際指揮者コンクールにて特別賞を受賞。1977年受賞記念演奏会を東フィルを指揮して開催。同年、1978年、1982年の3回にわたり東響を指揮して特別演奏会を開催。これまで3回にわたるブラジル大使館主催「ヴィラ＝ロボスの作品を聴くコンサート」で企画、指揮を担当。1982年11月にはリオ・デ・ジャネイロにおけるヴィラ＝ロボス音楽国際コンクールの審査員として招かれ、さらに市立歌劇場管弦楽団を指揮、日本の作品を紹介し日伯音楽文化交流に大きな役割を果たし帰国。



●ピアノ／古関(旧姓山田)寛子

1951年福岡県生れ、日立一高卒、昭和48年東京音楽大学ピアノ科を実技優等賞受賞で卒業。昭和50年同研究科を修了、研究科在学中同大学附属幼稚園にてピアノ指導。(故)藤嶋義勝、岩畑美知子、武沢武、ミュチュスラフ・ムンツ各氏に師事、在学中より定期演奏会(於虎ノ門ホール)、東京文化会館(小ホール)、学内演奏会などに出演。青山タワーホールに於てジョイントリサイタル開催、オー生命ホールでの演奏会に出演。紫星グループ所属。



●マリンバ／倉島康影

麻布獣医科大学修士課程修了(斎藤保二教授のもとで病理学を専攻)。獣医師。10才よりマリンバを始める。池辺美智子、田村文治、朝吹英一の各氏に師事。全国選抜木琴大会に3回出場、1981年には、サロンコンサート風のリサイタルを行った。現在は、茨城県谷田部地区を中心とする音楽団体「エリカグループ」に属し、定期演奏会、コーヒーコンサート等に積極的な音楽活動を展開している。三菱油化薬品(安全性グループ)勤務。



●ソプラノ／佐藤あけみ

武蔵野音大声乐科卒業。'78～'80パルマ音楽院(イタリア)に留学。小田清、中沢桂、A. Bertacchi、E. Frotti、森俊幸諸氏に師事。長門美保歌劇、茨城オペラ、サカモトミュージカル等数多くのオペラ・ミュージカルに出演。東京と土浦でリサイタルを開く。又、新日フィル、読響、新星日響とのコンサートに出演し「オ九」「レクイエム」等のソリストとしてレパートリーを広げつつある。11月8日には勝田文化会館落成記念オペラ「タづる」のつう役に話題を呼んだ。



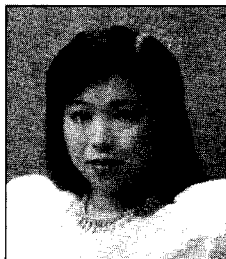
●ソプラノ／山本幸江

武蔵野音楽大学声乐科を卒業。佐藤宏之、郡司忠良、伊豆山教恵、松山憲善諸氏に師事。新人演奏会「音楽の友、ホールにて、ヴォーカル・コンサート。美浦村にてオ7回「あなたも知ってる世界の音楽」に日フィルの首席チェロ奏者 奈切敏郎氏などのメンバーと共に出演。



●ソプラノ／鈴木由美子

武蔵野音楽大学声乐科卒業。大関盛、中村邦子、(故)城多又兵衛諸氏に師事。武蔵野音大新人演奏会、茨城県新人演奏会に出演。新宿文化センターにて、ヴォーカルコンサート。土浦にてジョイントコンサートに出演。竜ヶ崎市在住。現在、土浦市民合唱団ヴォイストレーナー。



●ソプラノ／横瀬公子

尚美学院研究科を卒業。同学院修了演奏会、卒業演奏会等に出演。モーツァルト作「魔笛」の夜の女王でオペラデビュー。現在二期会オペラスタジオ29期に在籍している。



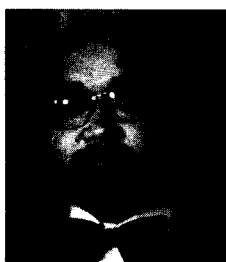
●ソプラノ／安東有貴恵

武蔵野音楽大学声楽科を卒業。声楽を浦野りせ子、河本喜介、ジャンヌ・パダール、金光良美の各氏に師事。卒業後、家永音楽事務所に所属、のちに茨城オペラに入り、オペラ・ハイライト「椿姫」「フィガロの結婚」その他、県芸術祭参加作品「小さな煙突そうじ屋さん」等に出演。一方東京では、オー生命ホール、朝日生命ホール、新宿文化センター等のヴォーカルコンサートに出演。1979年、フランス歌曲語学研修のためパリ・ソルボンヌ大学の講習に参加。1984年、イタリアにてアンジェロ・ベルタッキ氏に師事。渡伊期間中ミランドラ市主催によるチャリティ・コンサートに出演。



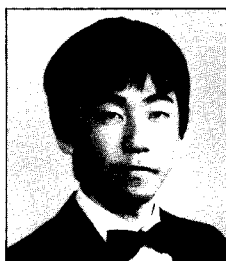
●ソプラノ／佐藤玲子

桐明学園大学音楽学部声楽科卒業。現在、同大学研究科1年在学中。落合祐子、志村年子各氏に師事。アクト青山ドラマティックスクールにて渥美國泰氏より演劇を勉強「半夏生」出演。オペラでは「コシファン・トゥッテ」にデスピーナ役で出演。



●バリトン／佐藤宏之

1972年武蔵野音楽大学を卒業。1978年より2年間イタリアパルマ音楽院声楽科に留学。帰国後東京でのリサイタルでデビュー。「カルメン」の伍長役、「魔笛」のパパゲーノ役などでオペラ出演、小林研一郎指揮、新星日本交響楽団の演奏でフォーレ「レクイエム」などにソリストとして出演。新星日響、東京交響楽団、新日フィルとのオペラコンサートや宗教音楽などジャンルを超えて活躍している。12月8日にはメサイアのソリストが予定されている。現在土浦短期大学講師、茨城県南フィル合唱団音楽監督。



●バス／堀部一寿

尚美高等音楽学院教育科、同研究科卒。在学中から、こんにやく座オペラ教室、長門美保歌劇団合唱部などで活躍。昨年は、茨城オペラにおいて「魔笛」にザラストロ役で出演。今年11月1日にはIMASオペラの「魔笛」にパパゲーノ役で出演。その他「フィガロの結婚」(フィガロ)「ジャンニスキッキ」(マルコ)「コシ・ファン・トゥッテ」(ドン・アルフォンソ)等も持ち役としている。西義一氏に師事。